

(080・4122・2714) 大村・東彼 (080・4122・2715) 島原 (080・4122・2709) 雲仙 (080・4122・2731)
京 (080・4122・2730) 対馬 (080・4122・2739) 壱岐 (080・4122・2743)

市内NPO 地元定着へ職業教育

若者の進路 諫早から「種まき」

諫早市で若い世代が地元経営者や実務家と対話しながら将来の生き方を考える職業教育が広がっている。NPO法人が主宰する産官学金連携の取り組みで、本年度は小中高校などで開く「おしゃべり会」に加え、大学での講座がスタート。学生らは古里を意識しながら進路選択と向き合っている。

主宰するのは同市のNPO法人「Seamless(シームレス)」。2021年の法人設立以降、市内の中学、高校など計約10校で対話型のおしゃべり会を展開し、毎年の恒例行事になっている学校もある。

1回あたり40人前後の経営者らがボランティアで参加。少人数のグループに分かれ、失敗を交え本音でぶつかってくる「人生の先輩」を前に、生徒たちは自身の考えや悩みを口にし、普段見せない生き生きとした表情に変わっている。

本年度は市立中のインターンシップ(就業体験)にも参加し、生徒のプレゼンテーション力を身に付ける指導も行うという。上野辰一郎理事長



学生の質問に答える(右から)末次さん、瀬頭さん、上野さん
＝諫早市西栄田町、鎮西学院大

経営者らと対話「選択肢示したい」

(65)は「子どもたちの地元定着に向けて種をまき、学校だけでなく企業や地域と連携して、みんなで育てようという取り組み」と狙いを語る。

4月から同市の鎮西学院大で始まったのは、就職試験対策講座(前期15回、選択科目)。上野さんと県内で活動する似顔絵師、末次司さん(37)が講師となり、建設や介護、食品業界などで働くゲスト10人を招く。2年生を中心に約20人が受講、仕事への向き合い方などを語り合っている。

同月中旬にあった初回講座のゲストは、元市職員で行政書士の瀬頭新治さん(72)。幼少期の魚の飼育をきっかけに大学で水産分野を専攻。別の仕事を経て中途採用で市の水産技師になった。「人とのつながりが、仕事のやりがいや生きがい」と瀬頭さん。上野さんは「良い企業や自治体に一発で就職したいかもしれないが、寄り道も選択肢の一つ」と学生に語りかけた。

多文化コミュニケーション学科2年の勘田桃歌さん(19)は就職活動は「つまみ食い」だ、という固定観念にとらわれないうことが大事だと思った。視野を広げて世の中を見渡してみようと思う」と話した。

市内などでマルシェ、子育て支援や婚活イベントを運営するルノン社長の神戸操さん(53)も、おしゃべり会の常連講師。同大でも来月登壇する。「子どもたちには好きなことを見つけ、多くの経験をしてほしい。親ではない相談相手として、進路に関する選択肢を提示できれば」。諫早発の「未来への種まき」。芽吹く日が待ち遠しい。

(橋本真依)